

特集 まちの賑わい、明日へつなぐ。

あなたにとって「賑わいあるまち」って、どんなまち？

このまちと、これからも。

同級生の 3 人が、毎朝、朝日公園などでラジオ体操を始めた！ SNS で参加者を募る彼らは「思いきって行動に移せば、いろんな人とつながっていき」と意気込む。8 月の「24 時間体操チャレンジ」には、のべ 90 人が参加。こうした一つひとつの取組がまちに活力をもたらしている。

（左から 中基紀さん、山下 哲平さん、岩本 和晴さん）

活動の様子 (Instagram)

みんなで名張の魅力を発信！

#名張感動 投稿キャンペーン

▲ 昨年の投稿作品

詳しくは市 HP で

今年で3年目！四季折々の絶景や家族でのわくわく体験など、名張で撮影した魅力ある作品を「#（ハッシュタグ）名張感動」を付けて、SNSで投稿・拡散してください。

投稿いただいた作品は、市の「シティプロモーション」に活用させていただくことも。「#名張感動」を合言葉に、地元の魅力を周りに伝えて、みんなで名張を盛り上げていきましょう！

☎ 地域活力創生室 ☎ 63 - 7782

Instagram・TikTokで「#名張感動」を付けて投稿 投稿期間 12/5まで

市の公式ページをフォローしてね！

抽選で20人に、なばりのお菓子セットをプレゼント

イメージ

巻き起こる移住者旋風

上高原 由佳 さん

2年前に名張へ移住。人のつながりを大切に、農業に親しんでいる



活動の様子 (Instagram)



無農薬米を作る 92 歳の大ベテランに農業を教わろうと、大阪から名張へ移住。農業が軌道に乗ってくる中、今年からは、親子連れなどを対象に田植えや稲刈り体験を始めました。農業のやりがいや食の大切さを感じてもらえたいと思います。

余ったトマトの苗をみんなに育ててもらおう「トマトチャレンジ」という企画も実施。SNS で募集すると、県内外から 25 人が参加してくれました。育て方を伝えているうちに会話も弾んで、私自身が一番楽しんでたかもしれません。

全国の人に自慢したくなるおいしいお米に野菜、そして、人の温かさ！もう、このまちにぞっこんです。「自分がいいな」って思ったことを、みんなと共有できれば、新しい輪が広がっていくんですよ。そんな人が少しずつでも増えていけば、まちはもっと賑わうかと、楽しくなっていくんじゃないかな。

商店街に灯をともし

細川 智之 さん

空き店舗で地元産野菜などを販売する「おひさま市場」を開催



活動の様子 (Instagram)



かつての桔梗が丘商店街は、人や車が通れないほどの賑わいで、店主とお客さんの交流も盛んでした。地域の人のつながりの中心が商店街だったように思います。今は閉まったままのシャッターが目立ち、行き交う人もまばら。このままではアカン…。そんな気持ちがこみ上げますね。

移動手段がなくて買い物に困っている人のために始めたのが「おひさま市場」です。週に 2 日、空き店舗で開催。荷物を持ってあげたりしながら、お客さんとコミュニケーションも。「市場ができてよかった」と言ってもらえると励みになります。

月に 1 度は、他地域のカフェなどにも出店してもらう「マルシェ」を開催。若い人の姿も多く、普段から市場を利用いただいている人も家族を連れて来てくれたりと、皆さんに応援いただいています。商店街に少しずつでも活気を取り戻せるよう、地道に取組を続けていきたいですね。

離れても百合が丘の一員

八木 知夏 さん

信州大学 2 年生。育った地域を大切にしたいと、帰省した際に地域の活動に参加している



忘れられない「百合子どもクラブ」主催のキャンプ。クラブに関わる地域の大人たちが全力で遊んでくれました。こうした活動を通じて、まちじゅうに知っている大人がいたことは、このまちに住む安心感につながっていたんだと思います。

小学校卒業後も子どもクラブに関わりたくて、地域の皆さんと一緒に活動をサポートする側に。今では 30 人を超えるクラブ出身者がこの輪に加わっています。地域のいろんな人と関わることで新しい自分が見つけられる。子どもたちにも、そう感じてもらえたらと思います。

今は百合が丘を離れて暮らしていますが、地域の一員として、私の居場所があると感じます。イベント企画にもオンラインで参加できますし、人と人との関わりの中でこそ、まちの賑わいが生まれていくのではないのでしょうか。これからも百合が丘の活動に積極的に関わっていきます。

文化祭×学園祭×音食祭

佐山 天晟さん 小澤 寧々さん

伊賀地域の学生手作りのイベントを発案・実行した高校生



活動の様子 (Instagram)



学校行事がコロナで次々と中止に…。自分たちの青春は自分たちで作ればいい。そんな思いで、昨年の秋ごろから LINE を使って仲間を募っているうちに、友達が友達を呼び、中学生から大学生までなんと 50 人の実行委員が集まりました。

音楽やダンス、食などが一緒に楽しめるイベントを目指し、仲間たちと試行錯誤。地元の企業にも出店や協賛をしてもらいながら、ひとつずつ自分たちの思いを形にしていきました。こうした中、仲間同士の絆も深まりましたね。

7 月に開催のイベントには子どもからお年寄りまで約 3,000 人の来場者が。オリジナルのテーマソングを披露した後、大空へ放った風船を見上げて歓声を上げるみんなの姿を見ると、自然と涙が溢れてきました。来年は伊賀市で開催予定。今からもう準備に入っています。さらにレベルアップして地域を盛り上げますよ。

名張の素敵発見

美山 莉香さん

デザイン会社経営。スキルを生かして名張の魅力を HP など発信中



活動の様子 (Instagram)



都会にあこがれて、名張を出ていった時期もありましたが、帰郷して子どもが生まれたときに気付いたんです。安心・安全な野菜や食品が、名張だとこんなに手に入るんだって。これを広く伝えていこうと、地元農産物や農家さんの魅力を発信するウェブサイト「nanowa（なのわ）」の運営に携わり、もう 5 年が経ちます。

「名張と言えばこれ」という特徴はないかもしれないですが、豊かな自然においしい食べ物、万葉の歴史…。実はたくさん魅力があって、新しい発見を楽しめるまち。今では、女性の在宅ワーク支援の一環で、2 人のママさんと一緒にイベントやグルメ、お出かけスポットなど幅広い情報を「nanowa」を通じて発信しています。

市内外の人に名張の「素敵」をたくさんみつけてもらって、名張っておもしろそう、住んでみたい、住んでよかったという人が増えていくといいなと思います。

人と人とのつながりを大切に、「賑わいあふれるまち」へ

通勤・通学に不便。働く場所がない。こうした理由で多くの若者が名張市から転出している中、大阪・関西万博をきっかけに、食と観光を基軸とした新たな観光産業を築き、魅力的な働く場を創出していきます。

また、新しい総合計画の策定にあたり、若い人々と意見交換していると「まちづくりに関わるチャンスがない」といった声も。意欲ある学生や若者がチャレンジできる機会が必要で、例えば、県内の大学生が地域課題の解決に向けて取り組む「三重創生ファンタジスタ」といった制度の活用なども検討しています。

「まちの賑わい」は、商業・観光施設の誘致や一過性のイベントなど、単に人を集めるだけで形成されるものではないはずです。まちに愛着をもった人がつながり、コミュニケーションが活発に行われ、まちの将来に主体的に関わる人を増やしていくことこそが重要なのではないのでしょうか。

人と人とのつながりが名張の財産です。今後、皆さんと一緒に「シティプロモーション」を強化し、転出した人も含め、市内外に地域の協力者を増やしながら、賑わいあふれるまちを目指していきます。



名張市長 北川 裕之

名張市の活力を失わせないよう、「新しい産業が息吹くまち」「若者が定着するまち」「だれもが安心して暮らせるまち」を政策の柱に掲げ、今年 4 月、第 4 代名張市長として初当選。現在、まちづくりの基本指針「名張市総合計画」の策定に向けて取り組んでいる

「シティプロモーション」で、地域の持続的な発展を

近年「シティプロモーション」という言葉を耳にするかと思いますが、その目的は、地域の魅力を発信し、人口増加を目指すことに留まりません。まちに愛着をもって、自分の住む地域を良くしたいと考える人や、住んでいなくても、その地域に関わろうとする人など、「地域に真剣になる力」を地域の内外に広げ、「地域の持続的な発展」につなげていくということです。

ところで、「まちへの愛着」はどこからやってくると思いますか。全国の事例からみて明らかなのは、「自分のまちを語る」ようになれば、確実に愛着が

生まれるということです。「自分のまちには何もない」と日本中どこに行っても聞きますが、まずは、まちの魅力を語れる人を増やしていくこと。その上で、魅力を発信できる場をたくさんつくっていったら、住民自らが共感できる名張「らしさ」を示すブランドメッセージが生まれてくれれば、さらに「シティプロモーション」の活動が広がっていくことでしょう。

こうして地域に関わる人々の持続的な「ここに住む（関わる）幸せ」をつくり出す循環ができれば、まちの輝きは失われ不会再です。



東海大学 文化社会学部 教授 河井 孝仁 さん

地域の持続的な発展に向けたシティプロモーション推進を図る「シティプロモーションアワード」を創設するなど、全国的なシティプロモーション研究の第一人者として精力的に活動している